

学部学生ポスターセッションの講評

第14回大会の学部学生ポスターセッションには32件の応募があり、セッション当日プレゼンテーションを行った30件が評価の対象となった。例年よりも応募数が多く、内容も充実していて、ポスターを前にしたプレゼンテーション力や質疑応答の内容も向上しているとの印象を受けた。総じて、研究発表するため何かを調べたらこうなりました、というよりも、何か好きなこと、関心のあること、引っかかったことを追求していったらこうなりました、という発表が多かったが、それこそが「研究の原点」。それでいいし、そうでなければなりません。今回、ポスターセッションでプレゼンして、色々な方々から色々なことを言われたかと思います。そのなかには、みなさんの心に響いたもの、目の前の風景が一変するようなものもあったかと思います。今後は、ぜひそれらを活かして、卒業論文の執筆や大学院に進学しての学習につなげてください。

さて、今年は、最優秀賞が1件、優秀賞が2件、選ばれました。その発表を行います。

最優秀賞

冨永果歩（とみなが かほ）・長柊（おさひいらぎ）・小山杏子（おやまきょうこ）（愛媛大学社会共創学部）「地域アートをめぐる交錯する「関係性」と「地域主義」と観光：未完成の段階におけるアクターの言説と制作過程に着目して」

講評：まだ実施されていないアートイベントについて、そこに関わる多様な人たちの言説を分析して整理し、アートイベントをめぐって、地域とアートと観光がせめぎ合いながら展開する過程を、実に丁寧かつ的確に追跡して把握している。質疑応答においても、ポスターでは表現しきれなかった背景や事情にも踏み込んで説明できていて、広く深い知見を有していることが良く分かった。実際のアートイベントはこれから開催されるということなので、継続して追跡して、「未完成の段階」のせめぎ合いが、このアートイベントの実際にどう反映されていくのか、明らかにして欲しい。内容的には一般研究発表に入っていても遜色なく、イベント自体も従来のものとは違う特徴的な過程を経ているので、状況が許すならばこの研究を継続して欲しい。

優秀賞

崎田彩夏（さきたあやか）・染矢柚香（そめやゆのか）・林桃子（はやしももこ）・村川澄怜（むらかわすみれ）（立教大学観光学部）「ミステリー作品における舞台空間と観光」

講評：作品への強い愛着から始まるコンテンツツーリズム研究は、細かいミクロな分析に陥りがちであるが、本研究は、『名探偵コナン』というコンテンツと、観光地の創造と再編との相互作用を長めの時間軸のなかで整理。その上で、コンテンツツーリズムが構造的に変容する契機や背景にまで踏み込んだ点が高く評価された。発表者たちのチームワークの良さも感じられた。

優秀賞

LYU JIAYAN（ロカエン）（和歌山大学観光学部）「苦痛を見ない観光客たち：友ヶ島に刻まれた沈黙と“無関心”の時代」

講評：友ヶ島の軍事遺跡から学ぶべきことは多いのに、友ヶ島を来訪する人たちはなぜそこから学ぼうとしないのか。プレゼンで友ヶ島の観光資料を配布していた発表者の友ヶ島への愛着は明白。「苦痛を見ない観光客」への苛立ちから、友ヶ島の魅力を語るのに欠かせない観光資源が活かされない社会構造，現代社会に生きる我々の忘却や無関心の問題へ鋭く切り込んだ点が高く評価された。